

1 日 時 令和 6 年 10 月 15 日 木曜日
開会 15 時 00 分 閉会 16 時 20 分

2 場 所 大同生命京都ビル 教育委員室

3 出席者 教 育 長 稲田 新吾
委 員 笹岡 隆甫
委 員 松山 大耕
委 員 石井 英真

4 欠席者 委 員 野口 範子
委 員 濱崎 加奈子

5 傍聴者 3 名

6 議事の概要

(1) 開会

15 時 00 分、教育長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第 1518 回京都市教育委員会会議の会議録について、全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

報告 1 件、議案 7 件

イ 非公開の承認

議案 7 件については、市長の作成する議会の議案に対しての意見の申出及びその他の関係機関と協議等を必要とする事項に関すること、人事に関する案件であり、京都市教育委員会会議規則第 3 条に掲げる「非公開事項」に該当するため、京都市教育委員会会議規則に基づき、非公開とすることについて、全員の承認が得られた。

ウ 非公開の宣言

教育長から、議案 7 件について、会議を非公開とすることを宣言。

エ 報告事項

報告 洛水中学校区の統合要望書の提出について

(事務局説明 豊谷 学校統合推進室担当課長)

伏見区の洛水中学校区にある「横大路小学校、納所小学校、洛水中学校」においては、横大路小学校の移転の検討を契機として、児童生徒数の減少が今後見込まれていることから、3校のPTAと横大路・納所の両地域において、学校統合を含めた子どもたちのより良い教育環境の在り方について、検討が進められてきた。

検討の結果、両地域において、「令和13年度を目途に、横大路小学校と納所小学校を統合し、洛水中学校と合わせて、施設一体型の小中一貫教育校の創設を目指す」ことで合意され、10月9日に小中一貫教育校の創設を求める趣旨の要望書が教育委員会に対し提出されたものである。

まず、PTAと両地域での検討の経過についてであるが、京都市の土地区画整理事業に合わせた横大路小学校移転の検討を契機として、令和元年度から、横大路小学校PTAにおいて、洛水中学校地での小中一貫教育校創設について検討が開始され、令和3年2月に方向性が確認された。

次に、納所小学校及び洛水中学校PTAでも検討され、令和5年春、3校PTAにおいて、小中一貫教育校創設の取組を進める決議がそろったため、横大路及び納所のそれぞれの地域に検討を依頼された。そして、令和5年8月に横大路地域において、令和6年5月には納所地域において小中一貫教育校創設の取組を進めることが決定したことから、統合協議を進める場として「洛水中学校区小中一貫教育校創設準備会」を発足させ、横大路小と納所小を統合し、洛水中と合わせた施設一体型・小中一貫教育校の創設を目指すことで合意されている。

次に、主な要望事項は5点ある。

1点目。令和13年4月を目途に、横大路小学校と納所小学校を統合し、洛水中学校と合わせた施設一体型の小中一貫教育校を創設すること。

2点目。小学校1年生から中学校3年生までの9学年すべての子どもたちがともに学ぶことができる校舎を現洛水中学校敷地に整備すること。

3点目。小中一貫教育校の特色を生かした教育の充実を推進すること。また、十分な教育的配慮のもとで準備を進めること。

4点目。子どもたちの通学安全や通学上の負担軽減のため、市バス等の利用と安心できる利用環境の確保、及び通学路の整備と安全の確保について、関係機関に働きかけるなどにより、万全を期すこと。また、市バス等の利用による保護者の経済的負担の軽減について、十分に配慮すること。

5点目。閉校となる学校の跡地活用は、地域の意見を十分に聞きながら、検討すること、である。

なお、要望書の提出者は、横大路連合自治協議会会長、納所自治連合会会長の連名である。

次に今後の予定についてであるが、本市では、これまでから地域からの御要望を尊重して学校統合を進めているところであり、今後、今回の洛水中学校区における地域の方々の御要望の趣旨を踏まえ、また、市会の御理解・御支援を頂きながら、令和13年度の開校の実現に向け、検討を進めたいと考えている。

なお、「参考」として、資料の下段に、今年度の各校の「児童生徒数と学級数」と「児童生徒数の推移」を記載している。本年5月時点の児童生徒数は、3小中学校の合計で614名。開校予定の令和13年度では、3校の合計で約450名の児童生徒数になると見込

んでいる。

次の「校区図」には、距離の目安を示している。納所小学校と洛水中学校間が約1.9キロであり、最も遠い地域については、横大路学区では横大路下三栖の2.4キロ、納所学区では横大路松林の2.6キロである。

今回の学校統合では、校区が広く、やむなく通学が遠距離となる児童が多くなるため、特に要望項目の4点目にある「通学安全や通学上の負担軽減」の思いを受け止め、最大限の努力をしていく。

洛水中学校区の状況に応じた新たな学校づくりを進め、引き続き、地域の皆様方の御期待に応えていけるように考えていく。

(委員からの主な意見)

- 【松山委員】 市バスについては、運転士の確保が難しく非常事態宣言が出されるなど、人員不足が問題となっている。洛水中学校区に限ったことではないが、今後のことを見越して、中学生の自転車通学などレギュレーションの変更を考えてみてもいいのではないか。
- 【事務局】 これまでも、交通局から運転士不足について話を聞いているところだが、今後もしっかり連携をとり、増便に向けて要請していく。なお、中学生については徒歩通学を考えており、バス通学は小学生を対象に考えている。
- 【笹岡委員】 市バスで通学すると、時間はどれほど短縮されるのか。
- 【事務局】 例えば、最遠の横大路松林地区から洛水中までだと、徒歩でおよそ40分かかる。市バスを利用すると、最寄りのバス停まで徒歩で通ってもらうことになるが、最寄りのバス停までは現在の小学校までよりかかからない距離である。また、バス停から洛水中まではバスで5～6分である。
- 【石井委員】 自身は地方出身であるので、2kmほどであれば歩いて通えると感じてしまうが、最大限の安全は図ってほしいし、持続可能な方法を検討してもらいたい。市バスの利用は保護者負担をなくすということか。
- 【事務局】 市バス通学については、全額公費負担を考えている。過去に統合した開晴小中学校においても、市バスを利用する子どもの通学定期券代を全額公費負担している。
- 【稲田教育長】 横大路松林地区は、直線距離だと洛水中まではそれほど遠くないが、道がないため迂回しなければならない。
- 【事務局】 土地区画整理事業において、道ができれば徒歩通学も可能かと思う。
- 【笹岡委員】 道の建設について要望される予定はあるのか。
- 【事務局】 今後、地域から建設局へ要望されると思われる。
- 【稲田教育長】 市バスで通学している子どもがいる学校はどこか。
- 【事務局】 東山開晴館、双ヶ丘中、市原野小である。なお、市原野小においては、元静原小の子どもが対象であるが、今年度統合要望のあった鞍馬小においても全額公費負担を検討されていく。

(4) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

9月13日 令和7年度京都市立学校教員採用選考試験結果の発表

- 9月17日 全市校園長会の実施
- 9月25日 予算特別委員会（補正予算）
- 9月26日 文教はぐくみ委員会
- 9月27日～28日 小中一貫教育全国サミット（広島県府中市）
- 10月1日～14日 第12回天才アート展2024
- 10月3日～4日 本会議（代表質疑）
- 10月9日～13日 第45回美工作品展
- 10月9日 洛水中学校区統合要望書の提出
- 10月10日 予算特別委員会（局別質疑）

○事務局から、当面の日程について説明

(5) 閉会

16時20分、教育長が閉会を宣告。

署名 教育長